読者の広場

ISTC/SAC 議長が行く

ーアルメニア編ー

日本原子力研究開発機構
深堀 智生
fukahori.tokio@jaea.go.jp

---

1. はじめに

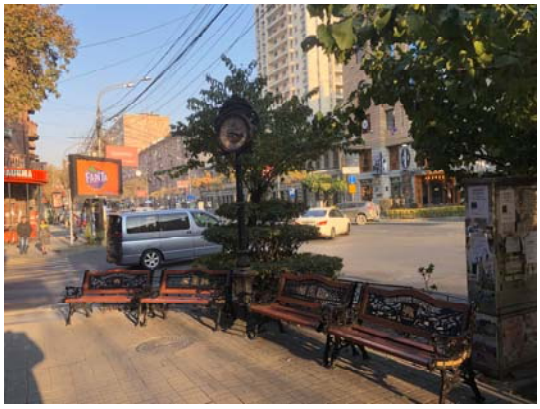
国際科学技術センター（ISTC）の科学諮問委員会（SAC）議長として訪れた中央アジア、コーカサス地方の諸国の都市について 4 回目の紹介となる[1-4]。酒類の話ばかりで恐縮であるが、今回はコーカサス地方のブランデー（アルマニャック）で有名なアルメニアの首都エレバンについて紹介したい。アルメニア共和国は前回のジョージア共和国と同様に ISTC の加盟国（被支援国）である。2019 年 11 月、エレバンで ISTC/運営理事会（GB）を開催することになったため、同国を訪問した。

2. アルメニアと首都エレバンについて

アルメニアは、ジョージアと同様に、カスピ海と黒海の間に位置する（図 1）。世界で最初にキリスト教を国教としたとされ、各地に歴史ある聖堂や修道院が現存している。古くからアジアとヨーロッパの十字路として栄えてきており、数多くの民族が行き交う交通の要衝であることもジョージアと同様である。

首都のエレバンは、国の中央南西側のトルコ国境近傍に位置し、異国情緒が漂うものの、旧ソ連の暗いイメージではなく、どちらかというと極彩色の観光地のような印象を受けた（図 2 左）。アルメニアの観光地ではないのであるが、天気の良い日はトルコの国内にあるアララト山が良く見える。ご存じの通りアララト山は旧約聖書に出てくるノアの箱舟が漂着した場所と言い伝えられている。アララト山の画像は web 等で見ることができるので、筆者が飛行機の中から撮影した「迷」写真を掲載させていただく（図 2 右)）。

図 1　アルメニアと周辺の地図（©Google Map）



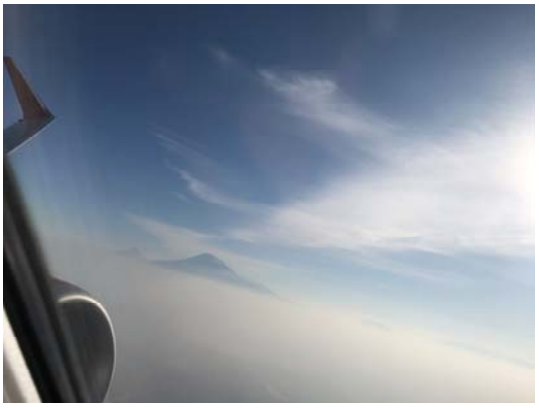


図 2　エレバンの街並み（左）とアララト山（右）（筆者撮影）

3.　CANDLE 研究所

訪問 2 日目にアルメニアの加速器施設 CANDLE (Center for the Advancement of Natural Discoveries using Light Emission)研究所を訪問させていただいた。加速器は、いわゆる放射光用の電子シンクロトロンで、3GeV まで電子を加速でき、紫外光から X 線領域までの放射光を利用できるそうだ。意外というと失礼になるかもしれないが、ちゃんと運営されて、それなりの成果を生産しているようである。

前日の懇親会で「機会があれば加速器の見学をさせてほしい」とお願いしてみた。最初は、CANDLE の研究者が小生のことを「外国の役人」と思い、「そいつが加速器を見せろ」といった体で雑に対応されていたが、翌日訪問すると掌が返ったような丁寧な対

応を受けて驚いた。どうも、夜の間に筆者の履歴を「ググっ」たようで、それなりに論文が出てきたため、研究者に対する扱いに変更されたようである。旧ソ連諸国ではありがちであるが、ここまで対応が変わったのは初めてのことで、かなり面食らった記憶がある。

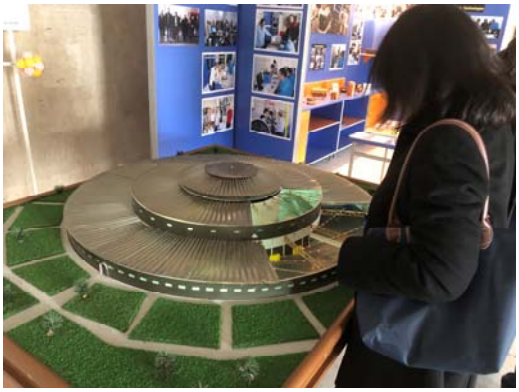


図 3　CANDLE 研究所の外観（左）と放射光施設の模型（右）（筆者撮影）

4.　マテナダラン

マテナダランはエレバンにある世界有数の古文書館（公文書館）である（図 4）。CANDLE 研究所の見学ののち、訪問した。外観の壮麗さもさることながら、内部に所蔵されている古文書は相当数に上るとの説明を受けた。言語が良くわからないので、見た目で「幾何学だろう」とわかる本（図 5）を撮影させてもらった。たぶん、印刷ではなく、肉筆なのがすごい。

図 4　マテナダランの外観（筆者撮影）

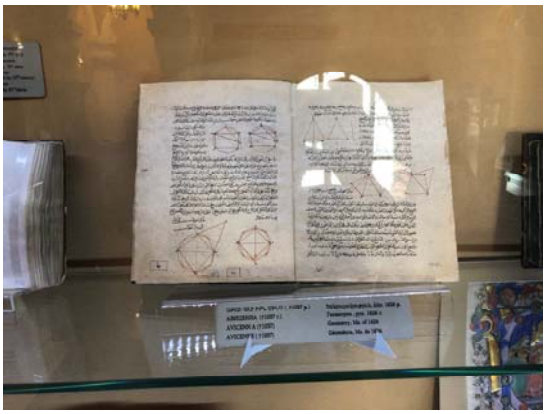


図 5　幾何学について記載されていると思われる古文書（筆者撮影）

図 6　ハイテク工業省（左）とエレバン歌劇場（右）（筆者撮影）

5.　表敬訪問

アルメニアでの GB 会合は盛りだくさんで、2 つの役所（ハイテク工業省（図 6 左）と教育省）及び関連するイベント（子供たちのコンサート）で歌劇場（図 6 右）を訪問することができた。この辺りになると、写真を取り忘れている。

6.　その他の観光スポット等

エレバンの観光スポットは比較的コンパクトにまとまっていて、上記で紹介した場所や次に紹介する Cascade Complex を含めて、共和国広場（この近くのホテルに宿泊した）を中心に半径 1km くらいの中に納まってしまう。

Cascade Complex は、広大な階段でつながったテラス式庭園や美術館がある複合建築物である。2000 年ごろに完成したそうである。エレバン市街の一番おしゃれな場所で、夜になるとライトアップされる（図 7）。ここは南向きに階段が下っており、一番上部から南を向くと前述したアララト山を望むことができる。夕暮れ前に最上段に到達できたが、若者のデートスポットでもあるらしい。

図 7　Cascade Complex の昼と夜（筆者撮影）

図 8　(左上)この車は動かせるのだろうかと思う街中の土産屋、(右上)どうやって返すのだろうか悩むレンタカー、(左下)皿屋敷のようなカフェ、(右下)割ってしまわないか心配になるワインセラー（筆者撮影）

エレバンはその他にも面白そうなものが転がっている愉快な町であった。図 8 にてその中からいくつか紹介したい。図 8（左上）はどう見てもお土産屋さんなのであるが、貨物用のトレーラの方はそのままで、移動用（と思われる）の小型自動車にお土産が展

示されている。ご丁寧にボンネットを開けてエンジンルームにまで飾ってある。移動させる気があるのだろうか。図 8（右上）はレンタカーと思しき車が路上に並んでいる。どのように商売するのであろうか。図 8（左下）はたまたま立ち寄った青空カフェなのであるが、店中にこれでもかと陶器の皿が飾ってある。骨董品でもなさそうだし、店主が作ったものでもないそうだ。お待たせしましたワインである（図 8 右下）。アルマニャックの国と書いたが、この訪問では残念ながらアルマニャックを味わうイベントはなかった。当然お土産には買って帰ったが、ワインは町の中のいたるところで売っていた。ただ、この店のディスプレイは、何かの拍子に力が加わったら、大惨事になりそうなものであった。

7. おわりに

今回はコーカサス地方のアルメニアの首都エレバンを紹介した。以上を以って、中央アジアおよびコーカサスの旅は一応終了である。ウズベキスタン（この国も ISTC 被支援国の一つ）の首都タシケントやサマルカンドにも訪れてみたいと思っていたが、機会がなかった。また、紹介した都市の他にも、会合は、日本（いわき市）、ドイツ（フランクフルト）、ベルギー（ブリュッセル）等で開催されているが、訪れておられる方も多いと思われるので、こちらについてはまた別の機会に譲ることとしたい。

ISTC の科学諮問委員会（SAC）議長という役割をいただいたおかげで、GB を含み、日ごろ訪れることがない地域に足を運ばせていただいた。非常に大きな経験をさせていただいたと感じている。いろいろとお世話になった各国の日本大使館の方々に、この場をお借りして、お礼を申し上げたい。

参考文献

[1] 深堀智生:「ISTC／SAC 議長が行くーカザフスタン編ー」、核データニュース No.138, 46-50 (2024).

[2] 深堀智生:「ISTC／SAC 議長が行くーカザフスタン編（その 2）ー」、核データニュース No.139, 28-33 (2024).

[3] 深堀智生:「ISTC／SAC 議長が行くーウクライナ編ー」、核データニュース No.140, 73-77 (2025).

[4] 深堀智生:「ISTC／SAC 議長が行くージョージア編ー」、核データニュース No.141, 26-31 (2025).